

発 言 通 告 書

令和6年2月27日

松山市議会議長 渡部克彦 殿

松山市議会議員 梶原時義

次のとおり通告します。

発言順位	1 2	受領日時	2月 27日 午前 11時 55分	2 枚中 1 枚目
質問等の方式	一問一答方式		一括方式	発言時間 約 30 分
答弁を求める者	市長	教育長	選挙管理委員会委員長	公平委員会委員長
	農業委員会会長	監査委員	公営企業管理者	

No.	件 名	発 言 の 要 旨
1	昨年12月末にNHKニュースで報道された本市幹部職員(現職副部長)によるセクハラ事件について、市長は隠蔽をするのではなく、全容を明らかにした上で、被害者と全職員に謝罪するべきではないか。	<p>(1) 昨年2月に産業経済部幹部による複数の女性部下に対するセクハラ事件の告発があったことが、12月のNHKの報道により明るみに出たが、3月に加害者である幹部職員に事実関係を含むヒアリングをしなかったと聞くが、何を話したのか、聞いたのか、確認したのか、どのような指導をしたのか、その詳細なやり取りの内容を明らかにせよ。</p> <p>(2) NHKの報道では事件当初から人事課が隠蔽に走った形跡が見て取れるが、告発を依頼した被害者3人の女性の内の一人にしか聞き取りをしなかった理由は何か。 また、その理由に正当性はあるのか。</p> <p>(3) 被害者女性3人の訴えでは、LINEによるセクハラメールや飲み会で直接身体を触られたという具体的なセクハラ行為が報告されたにもかかわらず、加害者に対し10カ月もの間、事実確認を行わず、いまだにセクハラ認定もしていないとはどういうことなのか。 また、人事課は、当初加害者に加害行為の確認もしていないのに、その後の4月にはセクハラ行為はなくなったとしているが事実なのか。それは何をもってセクハラ行為がなくなったと判断したのか。</p> <p>(4) 市長はNHKの取材に対し「女性の希望もあり状況を注視していた。対応は適切だった」と一連の対応を正当化しているが、本当は、被害者は加害者からの逆恨みが怖いから、加害者に特定されないようにした上で、ほかの多くのセクハラ被害の調査を望んだのではないのか。</p> <p>(5) 今回のセクハラ被害者周辺職員の情報では、加害者の産業経済部幹部とセクハラ事件を隠蔽しようとしている総務部長が同期でとても親しい関係にあるので、職員は逆恨みを恐れて告発するのが難しかったと聞くが、加害者が部下の女性に送った「公私共に好きだ」「ストーカーになるよ」「好き過ぎてヤバいです」「初恋的な、感覚」と</p>

